

# 令和5年 宮城県秋の交通安全県民総ぐるみ運動実施要綱



- ～ 反射材用品等の着用促進と夕暮れ時の早めのライト点灯 ～
- ～ 横断歩道における歩行者優先の徹底と交通ルールの遵守 ～

## 第1 目的

広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、地域、職域における道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

## 第2 期間

- 1 運動期間 令和5年9月21日(木)から30日(土)までの10日間
- 2 交通事故死ゼロを目指す日 9月30日(土)

## 第3 主催

宮城県交通安全対策協議会

## 第4 運動重点

- 1 子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保 【全国重点】
- 2 夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶 【全国重点】
- 3 自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底 【全国重点】

## 第5 運動重点に関する主な推進項目

以下のとおり各重点に掲げる項目を中心に、参加・体験・実践型の交通安全教育や広報啓発活動、街頭での交通安全指導や保護・誘導活動を実施する。

- 1 子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保
  - (1) 歩行者の交通ルール遵守の徹底
    - ア 歩行者に対し、横断歩道を渡ること、信号機のあるところでは、その信号機に従う等の基本的な交通ルールの周知に加え、自らの安全を守るための交通行動として、運転者に対して横断する意思を明確に伝え、安全を確認してから横断を始めること、横断中も周囲の安全を確認すること等を促す呼び掛けの強化
    - イ スマートフォンを使用した「ながら歩き」の危険性についての広報啓発の強化

- ウ 歩行中幼児・児童の交通事故の特徴（飛び出しによる死亡・重傷者が多いなど）、高齢歩行者の死亡事故の特徴（横断歩道外横断、走行車両の直前直後横断等の法令違反が多いなど）等を踏まえた交通安全教育等の実施
- エ 安全に道路を通行することについて、日常生活や教育現場における保護者や教育関係者からの幼児・児童への教育の推進
- オ 高齢歩行者の死亡事故の特徴（65歳未満と比較して横断中が多いなど）を踏まえ、高齢者自身が、加齢に伴って生ずる身体機能の変化（例えば、認知機能の低下、疾患による視野障害等の増加、反射神経の鈍化、筋力の衰えなど）を理解し、安全な交通行動を実践するための交通安全教育等の推進
- カ 反射材用品等の視覚効果や使用方法等の周知と自発的な着用の促進
- (2) 歩行者の安全の確保
  - ア 通学路、未就学児を中心に子どもが日常的に集団で移動する経路等における見守り活動等の推進
  - イ 「ゾーン30プラス」の整備を始めとする生活道路対策の推進
  - ウ 通学路交通安全プログラム等に基づく点検や対策の推進
- 2 夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶
  - (1) 夕暮れ時と夜間の交通事故防止
    - ア 夕暮れ時と夜間における死亡事故の特徴（日没後1時間の横断中歩行者の死亡事故が多いなど）を踏まえた交通安全教育等の実施
    - イ 夕暮れ時における自動車・自転車前照灯の早め点灯の励行
    - ウ 夜間の対向車や先行車がない状況におけるハイビームの活用
    - エ 自動車運送業を始め事業者による従業員への夕暮れ時と夜間の運転時の注意喚起
  - (2) 運転者の歩行者等への保護意識の向上
    - ア 交通ルールの遵守と歩行者や他の車両に対する「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持って通行する交通マナーの呼び掛け
    - イ 横断歩道等に歩行者等がないことが明らかな場合を除き、直前で停止可能な速度で進行する義務と横断歩道等における歩行者等の優先義務等の遵守による歩行者等の保護の徹底
    - ウ 運転者に対し、歩行者等の保護の徹底を始め、安全に運転しようとする意識及び態度を向上させるための交通安全教育や広報啓発の推進
    - エ 運転中のスマートフォン等の使用等の危険性についての指導・広報啓発の強化
  - (3) 飲酒運転の根絶
    - ア 交通事故被害者等の声を反映した広報啓発活動等を通じた、飲酒運転等の危険運転を絶対に許さない環境づくりの促進
    - イ 飲食店等における運転者への酒類提供禁止の徹底及びハンドルキーパー運動の促進
    - ウ 飲酒運転の悪質性・危険性を理解させるなど、飲酒運転をさせない運転者教育の推進
    - エ 運転者の点呼時におけるアルコール検知器の使用促進や業務に使用する自動車の使用者等における義務の遵守の徹底
    - オ 運転者に飲酒運転は一瞬にして人命を奪う凶悪な犯罪であることを認識させ、運転者のみならず、家族・友人など関係者が一丸となって飲酒運転を根絶していくための、更なる飲酒運転の根絶に向けた広報啓発の実施
  - (4) 妨害運転（いわゆる「あおり運転」）等の防止
    - ア 妨害運転（いわゆる「あおり運転」）等の悪質性・危険性の周知と罰則についての広報啓発
    - イ 「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持った運転の必要性、ドライブレコーダーの普及促進等に関する広報啓発の推進
  - (5) 二輪運転者に対する広報啓発
    - ア 二輪車の特性の周知やヘルメットの正しい着用とプロテクターの着用による被害軽減効果に関する広報啓発の推進
    - イ 若者層のみならず、中高年に対する二輪車安全運転教育・広報啓発の推進
  - (6) 高齢運転者の交通事故防止
    - ア 高齢運転者に対する加齢等に伴う身体機能の変化が運転に及ぼす影響等を踏まえた安全

#### 教育及び広報啓発の推進

- イ 衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全技術を搭載した安全運転サポート車（略称：サポカー）の普及啓発とサポートカー限定免許制度についての広報啓発の推進
- ウ 身体機能の低下等により安全な運転に不安のある運転者等に対する安全運転相談窓口（＃８０８０）の積極的な周知及び利用促進と、運転免許証の自主返納制度及び自主返納者に対する各種支援施策の広報啓発による自主返納の促進

#### (7) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

- ア 後部座席を含めた全ての座席におけるシートベルトとチャイルドシートの着用義務の周知・指導の徹底と正しい着用の必要性・効果に関する理解の促進
- イ シートベルトの高さや緩みの調整、チャイルドシート本体の確実な取付方法やハーネス（肩ベルト）の締付け方等、正しい使用方法についての広報啓発の推進
- ウ 高速乗合バスや貸切バス等の事業者に対する全ての座席におけるシートベルト着用を徹底させるための指導・広報啓発の強化

### 3 自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

#### (1) 自転車の交通ルール遵守の徹底

- ア 「自転車安全利用条例」及び「自転車安全利用五則」を活用した自転車の通行ルールや歩行者優先の乗り方の周知徹底（車道の左側通行の原則(歩道通行は例外)、通行できる歩道での歩行者優先と車道寄りの徐行、前照灯の点灯、交差点での信号遵守と一時停止、安全確認の徹底等）
- イ 飲酒運転、二人乗り、並進の禁止の徹底と、傘差し、スマートフォン等使用、イヤホン使用等の危険性の周知徹底
- ウ 自転車通行空間（普通自転車専用通行帯、自転車道等）が整備された箇所における走行ルールの周知徹底

#### (2) 自転車利用者の被害軽減のためのヘルメット着用と安全確保

- ア 全ての自転車利用者に対するヘルメット着用の必要性・効果に関する理解の促進と努力義務化を踏まえた着用の徹底に向けた広報啓発の推進
- イ 幼児を幼児用座席に乗車させる際のシートベルト着用及び幼児二人同乗用自転車の乗車・降車時における転倒等の具体的な危険性の周知や安全利用に関する広報啓発の推進
- ウ 夕暮れ時の早めの灯火点灯と反射材用品等の取付け促進による自転車の被視認性の向上
- エ 自転車の点検整備等の励行とＴＳマーク制度の普及促進
- オ 自転車事故被害者の救済に資するための自転車損害賠償責任保険等への加入促進

#### (3) 業務運転中の自転車の安全利用

自転車をを用いた配達業務中の交通事故を防止するための関係事業者等に対する交通安全対策の働き掛けや自転車配達員への街頭における指導啓発、飲食店等を通じた配達員への交通ルール遵守の呼び掛け等の推進

#### (4) 特定小型原動機付自転車（電動キックボード等）のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

- ア 特定小型原動機付自転車（電動キックボード等）に関する新たな交通ルールの周知と遵守の徹底及び被害軽減のためのヘルメット着用の徹底
- イ 特定小型原動機付自転車（電動キックボード等）の利用者に対する販売事業者、シェアリング事業者等と連携した交通ルール遵守及び安全利用についての指導・広報啓発の強化

## 第6 運動の実施要領

運動の実施に当たっては、交通事故により、いまだ多くの人々が犠牲になり、あるいは心身に損傷を負っている厳しい交通事故情勢が県民に正しく理解・認識され、運動の重点及び推進項目の趣旨が県民各層に定着し、県民一人一人が交通ルールを守り、相手に対する「思いやり・ゆずり合い」の気持ちをもって交通マナーを実践するなど交通事故の防止に寄与するよう、効果的に運動を展開するものとする。

さらに、交通安全に対する県民の更なる意識の向上を図り、県民一人一人が交通事故に注意した交通行動をとることにより、交通事故の発生を抑止することを目的とした「交通事故死ゼロを目指す日」を実施する。

- 1 主催機関・団体は、相互間はもとより関係機関・団体等との連携を密にし、支援協力体制を保持するとともに、具体的な実施計画を策定し、推進体制を確立する。
- 2 主催機関・団体は、組織の特性をいかして地域住民が参加しやすいように創意工夫し、参加・体験・実践型の各種交通安全教育、街頭キャンペーン、交通安全教材等の提供、被害者の視点を取り入れた啓発活動等の諸活動を展開し、又は支援する。
- 3 主催機関・団体は、テレビ、ラジオ、新聞、広報誌（紙）、インターネット、携帯端末、ポスター・チラシ、広報車等、各種広報媒体を活用して対象に応じた広報啓発活動を活発に展開するとともに、各種メディアに対し、運動を効果的に推進するための情報提供を積極的に行い交通安全意識の高揚を図る。特に、交通安全教育動画の発信等、ウェブサイトやSNSの活用による情報発信を積極的に展開する。
- 4 主催機関・団体は、所属の全職員に対し、本運動の趣旨を周知し、職員自身が交通法令を遵守し、体調面も考慮した安全運転を励行するとともに、率先して模範的な交通行動を示すよう特段の配慮をする。
- 5 県及び市区町村は、以下のような諸活動を展開し、又は情報提供等の支援をする。その際、民間団体及び交通ボランティア等との幅広い連携を図るとともに、高齢化が進む交通ボランティアの活性化と若者の交通安全意識の向上を図るため、ICT（情報通信技術）の普及も踏まえ、多様な形態の運動を展開し、幅広い世代の参画に努める。
  - (1) 地域、家庭等における活動
    - ア 世代間交流を視野に入れた参加・体験・実践型の交通安全教室等の開催
    - イ 住民を主体とした交通安全総点検、ヒヤリ地図の作成等による危険箇所の把握と解消
    - ウ 家庭内での話し合い等を通じた交通安全意識の高揚、安全な交通行動の実践
    - エ 交通安全教育を受ける機会の少ない高齢者等に対する家庭訪問等による地域が一体となった交通安全指導の推進
    - オ 地域、家庭等が連携した地域が一体となったこどもの見守り活動の充実
  - (2) 幼稚園、保育所、認定こども園及び小学校等における活動
    - ア こどもと保護者が一緒に学ぶ参加・体験・実践型の交通安全教室等の開催による、歩行中の安全な通行方法や自転車の安全利用等の基本的な交通ルール・マナーの教育
    - イ 保護者等を交えた交通安全総点検、ヒヤリ地図の作成等によるこどもの目線からの危険箇所の把握と解消
  - (3) 中学校、高等学校、大学等における活動
    - ア 参加・体験・実践型の交通安全教室等の開催による歩行中・自転車乗車中の安全な交通行動等の指導
    - イ 地域の交通安全啓発活動への参加促進
  - (4) 福祉施設等高齢者が利用する機会の多い施設等における活動
    - ア 参加・体験・実践型の交通安全教室等の開催による、歩行中・自転車乗車中の安全な行動等の指導
    - イ 関係者等を交えた交通安全総点検、ヒヤリ地図の作成等による、高齢者にとっての危険箇所の把握と解消
  - (5) 職域における活動
    - ア 事業所等の業務形態に対応した交通安全講習等の開催
    - イ 飲酒運転・無免許運転・妨害運転（いわゆる「あおり運転」）・危険ドラッグ等を使用した上での運転等による交通事故の実態及び職域に及ぼす影響の周知
    - ウ 横断歩道における歩行者等優先義務の徹底と歩行者に対する思いやりのある模範的な運転の実践
    - エ 交通法令を遵守し、体調面も考慮した安全運転の励行
    - オ 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
    - カ 自転車利用者等に対するヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底
    - キ 社内における広報啓発活動や職員による地域の交通安全啓発活動への参加の促進
    - ク 安全運転管理者、運行管理者等による交通安全指導の徹底
    - ケ 地域、家庭等との連携による地域が一体となったこどもの見守り活動の充実